



2021年9月

- 今回のリリースでの新機能 (1 ページ)
- このリリースでの変更点 (3 ページ)
- 不具合 (3 ページ)

今回のリリースでの新機能

ダッシュボード

スマートライセンスとの統合：シスコスマートライセンスは、ソフトウェアのアクティブ化と管理の方法を合理化する柔軟なライセンスモデルです。このソリューションを使用すると、ライセンスのステータスとソフトウェアの使用傾向を簡単に追跡できます。Cisco Spaces でシスコスマートライセンスを有効にするには、Cisco Smart Software Manager (CSSM) を使用して設定されたスマートアカウントが必要です。Cisco Spaces ダッシュボードダッシュボードで、**[Profile] アイコン** > **[Activate Smart License]** の順に選択して、シスコスマートライセンスをアクティブ化します。

- **ライセンスのアップグレード/ダウングレード**：シスコスマートライセンスをアクティブ化した後、Cisco Spaces ライセンスをアップグレードまたはダウングレードできます。これを行うには、**[Profile] アイコン** > **[License info]** > **[Select License Level]** の順に選択します。
- **トライアルサポート**：シスコスマートライセンスをアクティブ化した後、Cisco Spaces サポートチームに連絡して、トライアルサポートを有効にすることができます。トライアルモードが有効になっている場合、スマートエージェントは、CSSM へのライセンスの使用状況の更新を行いません。

詳細については、「[Cisco Smart License](#)」を参照してください。

行動メトリクス

[Workspaces] 分野：[Workspaces] 分野向けに、キャンパスレベルの計算が実装されています。以前は、ロケーション階層のネットワークノードを使用してメトリクスを取得していました。[Workspaces] 分野について報告されるデータの品質を向上させるために、キャンパスノードを

使用して訪問を追跡し、知見を得ることができます。企業や大学のほとんどのリアルタイム環境では、人々はキャンパス内にある近接する建物間を往来します。ネットワーク間を移動する人々のこのような行動から、訪問を追跡して知見を得るための単一の連続したスペースであるキャンパスノードに移行する必要性が高まっています。

- [Location] オプションからキャンパスノードを選択すると、キャンパスの平均が、[Workday Duration]、[Employee Frequency]、[Density Index]、[Entry Time]、[Exit Time] チャートに表示されます。
- 新しいフロアおよびゾーンレベルのチャートが追加されています。ネットワークロケーションを選択して、次のチャートを表示できます。
 - フロア/ゾーン別プレゼンス
 - フロア/ゾーン別シェア (%)
 - フロア/ゾーン別密度
 - フロア/ゾーン別訪問時間



(注) デフォルトでは、キャンパスとグループのロケーションデータはルートレベルのビューに表示されます。ロケーション階層でキャンパスロケーションが定義されていない場合は、ネットワークのロケーションデータが表示されます。

[Education] 分野：行動メトリクスアプリに [Education] という新しい分野のサポートが追加されています。すべての主要なチャートは、学生のメトリクスに基づいた情報を反映しています。[Education] 分野のチャートで使用されるすべてのメトリクスは、[Workspaces] 分野のチャートと同様です。

Cisco Spaces SDK

Cisco Spaces ソフトウェア開発キット (SDK) は、OpenRoaming テクノロジーを活用して、ユーザーによる操作を必要とせず、シームレスかつ安全にユーザーを Wi-Fi ネットワークに接続します。Cisco Spaces SDK により、iOS または Android アプリケーションの開発者は、バックエンドシステムで検証できる任意の ID を使用して iOS および Android デバイスを設定できます。また、Cisco Spaces SDK を使用すると、開発者は、iOS および Android の通知フレームワークを介して、ユーザーに関する詳細情報を追加し、デバイス上でユーザーと直接関わり合うことができます。

SDK 構成セクションには、ハンバーガーメニューアイコン > [Integrations] > [Cisco Spaces SDK] からアクセスできます。これにより、ネイティブアプリ (iOS および Android) を Cisco Spaces に登録できます。

詳細については、「[Cisco Spaces SDK Integration](#)」 [英語] を参照してください。

このリリースでの変更点

ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- [Connect via Meraki Login] ウィジェットが Cisco Spaces ダッシュボードから削除されました。
- すでに Cisco Meraki ログイン情報を使用して接続している既存のユーザーは引き続き有効であり、Cisco Spaces ダッシュボードで [Connect via Meraki Login] ワイヤレス ネットワーク オプションを表示できます。
- [Connect via API] キーが、Cisco Spaces を Meraki アカウントと統合するために推奨される方法です。

行動メトリクス

[Workspaces] 分野の次のチャートとオプションは、行動メトリクスアプリから削除されました。

- [Top & Bottom]、[Important]、[Pinned Locations] オプション
- [Occupancy Index] チャートとすべての [Line] チャート

Right Now

Right Now アプリが有線デバイスをサポートするようになりました。[Settings] メニューの [Include Wired Devices] オプションを使用して、アクティブな訪問者の一部として有線デバイスを含めることができます。デフォルトでは、有線デバイスは除外されます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNNN というパターンで、*x* は任意の文字 (a ~ z)、*N* は任意の数字 (0 ~ 9) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

ここでは、次の内容について説明します。

シスコバグ検索ツール

シスコバグ検索ツール (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

未解決の不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースにおける未解決の不具合を示します。

表 1: Cisco Spaces 未解決の不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCvu98859	新しい構成を適用すると、[Button Click] データや [Movement] データなどのテレメトリが 18 時間以上にリセットされる
CSCvv16880	ゲートウェイの展開ワークフロー中に、タイミングの問題により、AP が「needs config mode (設定モードが必要)」として誤って分類されることがある

解決済みの不具合

Cisco Spaces のこのリリースで解決された不具合はありません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。